むかしあっけどな。

じっちゃとばっぱとえだけでおんのな。あるとき、じっちゃ山さしば刈りに行ったけでおんの。だんだんってしば刈ってだば、

「だんだ、だんだ、そこでしば切るものア」

って叫ぶ人あるど。

「やまやまの屁ぴりじっこだア」

「んだら、ひとつひってみれ」

「んだか。にしきさらさら五葉の松原、とっぴんぱらりのぷう」

としたど。

「ほう、上手だ。いま一つ」

「にしきさらさら五葉の松原、とっぴんぱらりのぷう」

「ほう、まだも上手だ。いま一つ」

「にしきさらさら五葉の松原、とっぴんぱらりのぷう」

と、さっきのよりも大っきいのまげだど。

「まごころこめでやれば、屁まげでもええもんだ。ほうびになにがやりてエども、大っきカメほしが、小さいカメほしがア」

「俺あ年えって、大っきいカメだば背負いねエ。小さいカメでええ」

「んだがア。ここさ置いでいくがら、背負っていっても、途中で見ねで、家さ行ってから見れよ」

姿は見えねども、音のする方さ行ってみだば、小さいつづら置いでらっけど。そのつづら背負って、「なんだもんだべな」ど家さ来て、

「ばんば、ばんば、きょうはこうこういうわげで、このつづらもらったア。見てみれ、ばんば」

「ほう、なんだもんだべエ、きれいなつづらこだこど」

って、ばんばあげてみたば、金、銀の財宝の宝物いっぱいはいっていで、たまげて見でらどこさ、隣のわるいじっちゃ来て、

「あやあや、この家でこの宝物、どこから求めたもんだべ。なんじょしてお前だ、これ求めたっけな」

「俺きょう、山さ木切るに行ったば、こうこういうわげで、このつづらもらってきて、いま見でらどこだったア」

ったば、

「んだごったば、俺、あしたしば切るに行ってみるがら」

って、次の日、わるいじっちゃ、山さしば切るに行って、だんだんとしば切ってらば、

「まだそこでしば切ってるもの、だれぞ」

ったば、

「やまやまの屁っぴりじいだ」

「そんだら一つ、ひってみれ」

そのじいさん、山さ行く時から、物ほしくて行ったもんだために、おまじないの「にしきのさらさら」とばりに声かけだたて、なかなかなり音のする屁、出ながったそうだ。

「なんだか音しねえんたな。んだども、まんつもう一つやってみれ。」

って、こう言ったど。んだだば大っきいの出すべと思って、

「にしきさらさら」とばりにやったども、さっぱり大っきいの出ねど。

「なんだべ」

とその神さま思ったべども、

「ほうびやるんだえんて、大っきカメをしが、小っせカメをしがあ」
たど。
「背負い方ぞばなれてるんてが、できるだけ大っきいカメをしじゃ」
たど。
「んだらここさ置いでえぐども、途中で見ねで、家さ行ってが、ら見れ」
と言うど。音のする方さ行ってみだば、こんだ、大っきいつづら置いであるど。そのつづら背負って、途中で見るなと言うっけ、ども、なんたえな宝物入ってるもんだべと思ったし、重くもなったし、途中であげでみたば、ムカデからヘビから、きたねエものが出はってきたど。そしてこんだ、じっちゃどこかじるんだが、むしるんだが、いのかからがらで家さ逃げてきたば、こんだ、わるいじっちゃのばっばまだ、
「俺らのじっちゃだば、隣のじさまより大っきいつづら背負ってくるんだし、隣のじさまより、宝物ずっぱり持ってくるんだべし」
ど、て、きたねえんたものばすてたり、もやすものばもやしたりして、待ってだば、じっちゃ顔がらからだから、血どろで家さ逃「にばをきをんだとよ。んだから、まごころもってやれば、屁を出してもむぐいられるし、人の真似して、もの欲しばかりでだのやったたて、むぐいられねエというごどだど。
とっぴんばらりのぷう。